

日本河川・流域再生ネットワーク <http://www.a-rr.net/jp/>  <https://www.facebook.com/JapanRRN>

「日本河川・流域再生ネットワーク（JRRN）」は、河川再生について共に考え、次の行動へ後押しする未来志向の情報を交換・共有することを通じ、各地域に相応しい河川再生の技術や仕組みづくりの発展に寄与することを目的に活動する団体です。またアジア河川・流域再生ネットワーク(ARRN)の日本窓口として、日本の優れた知見をアジアに向け発信し、海外の素晴らしい取組みを国内に還元する役割を担います。(Since 2006)

目次	Pages
➤ JRRN 事務局からのお知らせ	1
➤ JRRN 会員寄稿記事	6
➤ 「リバフロサポートセンター」からのお知らせ	16
➤ 会議・イベント案内 & 冊子等の紹介	18

## JRRN 事務局からのお知らせ (1) JRRN Activity Report

### 「#桜のある水辺風景写真 2024」Instagram にて募集中！

前号でお知らせしたとおり、今年も「桜のある水辺風景写真」を募集しております。

ご投稿いただいた写真は事務局において最優秀賞 1 点、優秀賞複数点を選定し、JRRN ホームページで公表するとともに、各種刊行物・ウェブサイト等の広報媒体により、およそ900のJRRN会員をはじめ、リバーフロント研究所など関係機関の協力も得て、全国に積極的に広報します。

#### その1：JRRN のインスタをフォロー

JRRN のアカウント「jrrn01」をタグ付けしてください。

下記 QR コードからもアクセスできます。



2023 年度の最優秀賞、優秀賞の情報は <http://jp.a-rr.net/jp/news/info/date/2023/06> にてご覧いただけます。



#### その2：応募方法

撮影した「桜のある水辺風景」写真を Instagram に投稿してください。

投稿のキャプションには、タイトルや撮影時期・場所、コメントを自由に記入してください。

投稿には「#桜のある水辺風景 2024」のハッシュタグを付けてください。 それ以外のハッシュタグも自由に設定可能です。

春ならではの「桜のある水辺風景」を捉えた素晴らしい作品をお待ちしています！

(JRRN 事務局・後藤千佳子)

#### その3：募集期間

募集期間は2024年5月10日(金)まで。期間内に投稿された写真が対象となります。

過去に撮影した写真の投稿も OK です！





# #桜のある 水辺風景 2024

## 桜のある水辺風景写真募集中

#waterside scenery #Cherry blossoms #2024

- 応募期間：2024年3月1日（金）～ 2024年5月10日（金）
- 投稿写真はご本人が撮影した「桜のある水辺風景」のデジタル写真のみ  
※個人が特定できる人物画像が含まれる場合は被写体の方の  
了承を得てください
- 応募方法
  - ①Instagramを公開設定
  - ②「jrrn01」をフォロー
  - ③「#桜のある水辺風景2024」をつけて投稿

応募作品はJRRNの刊行物やWEBサイト等に使用させて頂くことがあります。

問合せ：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)  
事務局 担当：阿部・後藤（Eメール: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)）

主催：日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)応募先・問合せ先：[info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

JRRN 事務局からのお知らせ (2) JRRN Activity Report

小さな自然再生普及促進プロジェクトー令和6年度「小さな自然再生」現地研修会の開催地募集

様々な主体と協働しながら、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度も「小さな自然再生」現地研修会（3回程度）を開催します。

JRRN では、地域が抱える川づくりの課題を解決するための様々なテーマを設定し、2015年度から昨年度まで全国で22回の「小さな自然再生」現地研修会を開催してきました。（地図参照）

現地の川づくり・流域づくり・地域づくりの担い手の方々、研修会の一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等々を一緒に学ばせて頂くフィールドはありませんか？

昨年9月から11月にかけて全5回開催しました2023年度「小さな自然再生」現地研修会の開催報告を公開済です。各研修会について当日の写真や関連資料を中心に概要をとりまとめておりますので、今年度の現地研修会開催の検討に際しては、是非とも昨年の開催成果もご覧頂ければ幸いです。

※令和5年度 第18回～第22回研修会報告書はこちら  
<http://www.collabo-river.jp/events/>

【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場を有する川づくりの担い手の方々。（市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.）

※ご応募頂いた後、事務局より詳細な面談・調整をさせて頂き、開催地を最終決定します。

【応募期間 及び 今後のスケジュール】

◇応募期間：2024年4月3日（水）～23日（火）

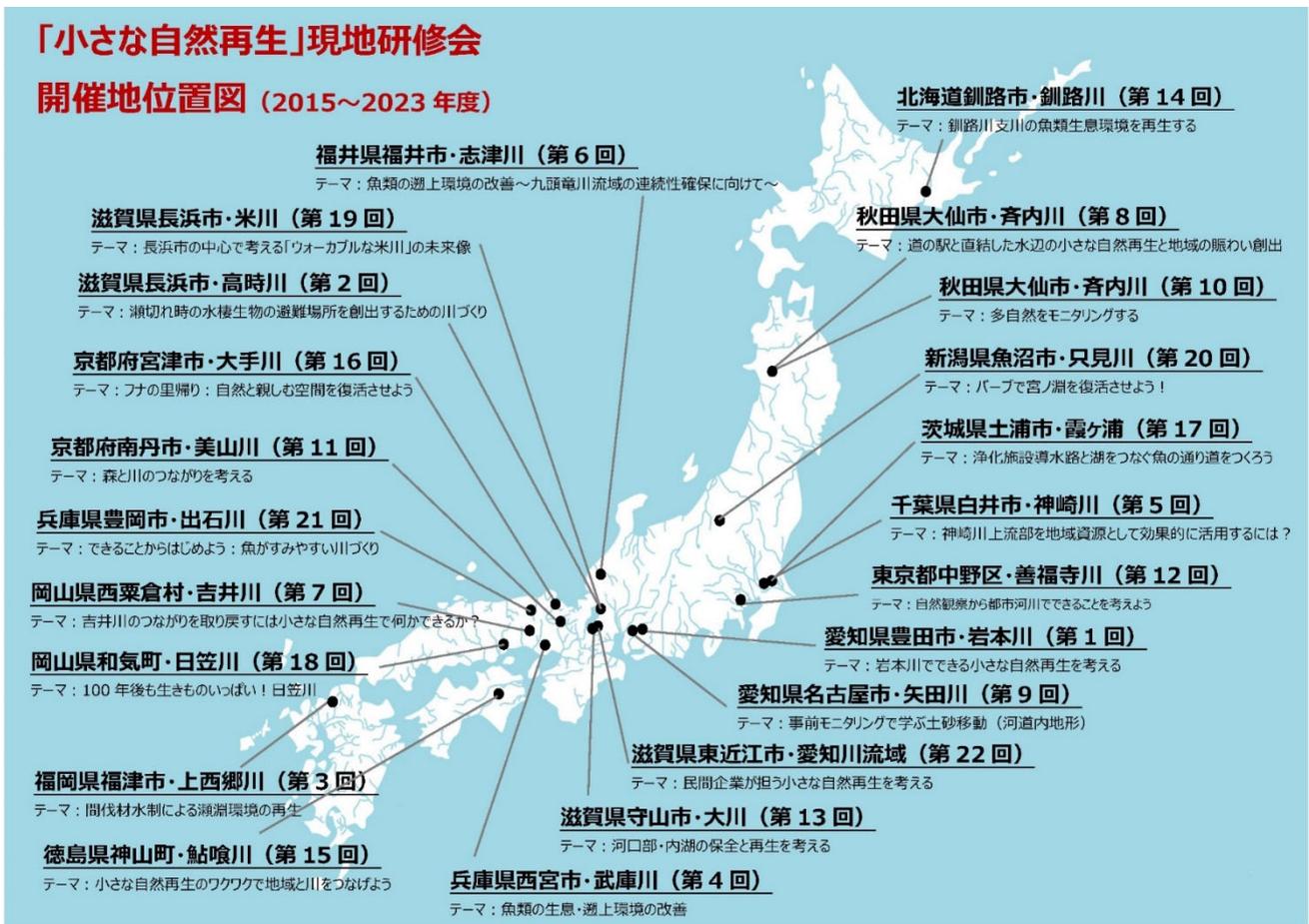
◇今後のスケジュール：

- ・～4/23（火）：開催を希望する現場の公募
- ・4月～5月中旬：各応募者との面談（オンライン形式）  
⇒開催地を決定（3箇所程度）
- ・5月下旬～11月頃：企画調整～現地下見  
事前準備～現地研修会開催
- ・12月～3月：現地研修会開催成果の普及

今年度の現地研修会の開催地募集の詳細は、次頁以降の案内チラシ及び以下の案内ページをご覧ください。

※令和6年度現地研修会 開催地募集案内はこちら  
<http://jp.a-rr.net/jp/news/info/1458.html>

(JRRN 事務局・和田彰)



# 2024年度 水辺の「小さな自然再生」現地研修会

## 開催を希望する “現場” を募集します

(2024年4月23日(火) 応募〆切)



2024年4月

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)

様々な主体と協働しながら、多様な動植物が生息・生育・繁殖できる環境づくりに取り組む仲間を増やし育成することを目的に、今年度も「小さな自然再生」現地研修会を開催します。

現地の川づくり・流域づくり・地域づくりの担い手の方々、研修会への一般参加者、そして「小さな自然再生」研究会の専門家とともに、身近な水辺でできる小さな自然再生の見直しを通じて、技術やノウハウ、工夫等を一緒に学ばせて頂くフィールドがあれば、是非ともご応募ください。

下記募集要項をご確認の上、ご興味のある方はご応募、ご相談をお待ちしております。

### 【応募条件】

水辺の小さな自然再生に関わる取組みを既に実践している、またはこれから取組もうと考えている現場を有する川づくりの担い手の方々。(市民団体、河川管理者、研究者、実務者 etc.)

※ご応募頂いた後、JRRN事務局より詳細な面談・調整をさせて頂き、開催地を最終決定します。

### 【“応募者(地元主催者)”と“JRRN”の主な役割分担】

◇応募者：地元調整(管理者等との調整、会場手配、資材調達、地元広報等)と運営補助

◇JRRN：専門家推挙・派遣(旅費等の費用負担含む)、会場費や資材等の費用負担、地元外広報、研修会運営・進行、研修会成果とりまとめ・普及等

※研修会プログラムは、応募者のご要望を踏まえJRRNや研究会専門家と一緒に考えます。

### 【応募期間 及び 今後のスケジュール】

◇応募期間：2024年4月3日(水)～4月23日(火)

◇今後のスケジュール：

- ・～4/23(火)：開催を希望する現場の公募
- ・4月～5月中旬：各応募者との面談(オンライン形式) ⇒ **開催地を決定**(3箇所程度)
- ・5月下旬～11月頃：企画調整～現地下見～事前準備～現地研修会開催
- ・12月～3月：現地研修会開催成果の普及

### 【応募方法】

氏名、所属、連絡先(住所・電話・e-mail)とともに下記申込先までEメールにてご応募下さい。

【応募申込み・お問い合わせ】 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)

日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN)事務局 担当：和田彰・白尾豪宏

〒104-0033 東京都中央区新川1-17-24 NMF茅場町ビル7F

公益財団法人リバーフロント研究所 リバプロサポートセンター内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net) Website: <http://www.a-rr.net/jp/>



Collaborative Nature Restoration  
「小さな自然再生」研究会

公益財団法人  
リバーフロント研究所



河川公益財団法人河川財団による  
基金 河川基金の助成を受けています。

## 研修会の開催候補地のイメージはこんな感じです

### 小さな自然再生とは？ <http://www.collabo-river.jp/>

次の3条件を満たす取組みを「小さな自然再生」と定義しています。

- (1) 自己調達できる資金規模であること
- (2) 多様な主体による参画と協働が可能であること
- (3) 修復と撤去が容易であること

#### ① 地元に活動主体がいること

現場に活動主体がいることが重要な条件です。現地研修会を一過性の打ち上げ花火にせず、研修会がきっかけとなり、これまでの地元の活動が更に充実したり、新たな活動が動き出すことを後押しすることが研修会の狙いです。そのためにも、「この川を、この水辺を、そしてこの地域をよりよく変えていこう！」と願う地元の主役（団体や仲間）の存在が大切な開催条件となります。

#### ② 河川管理者の協力が得られる現場であること

できれば座学のみではなく、川に入っの小さな自然再生の実践までを研修会を通じて開催できればと考えております。その場合には、河川管理者の許可が得られる現場であることが条件となります。

これまでの研修会では、共催や後援、協力として現場の河川管理者に協力頂いておりますが、研修会開催の地元関係者の合意形成や事前手続きの簡素化、また研修会以降の活動の継続性等を考慮すると、河川管理者の応援を得た研修会とすることはとても大切なことです。（必ずしも「連携」できていなくても構いませんが、河川管理者が反対している現場において強引に開催することはありません。）

#### ③ 準備や当日の運営に際し地元主体と JRRN で役割分担をして協働できること

本資料冒頭で触れている通り、地元主体と私たち JRRN で次のような分担をしながら「協働」で企画＆開催させていただきます。

##### <地元に担って頂くこと>

おすすめの現場の提案、河川管理者との調整、地元関係者への広報、資材等の可能な範囲の調達 etc.

##### <JRRN が担えること>

地元のニーズを踏まえたプログラムの提案、講師招聘（費用負担も）、河川管理者との調整のサポート、座学会場やバス手配（費用負担含む）、地元以外の広報、工具等のレンタルや購入、研修成果のとりまとめ、研修成果の普及。

**たくさんの皆様からのご応募、ご相談をお待ちしております。**

#### 【お問い合わせ】



日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局 (担当: 和田彰・白尾豪宏)  
〒104-0033 東京都中央区新川 1-17-24 NMF 茅場町ビル 7F



公益財団法人リバーフロント研究所 リバフサポートセンター内

Tel: 03-6228-3861 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net) Website: <http://www.a-rr.net/jp/>

## JRRN 会員寄稿 (1) JRRN Member Contribution

## 日本一の河川図書館の館長 古賀邦雄さんを偲ぶ ～追悼寄稿文～

河川や水などに関する書籍約 1 万 2000 冊以上を収集し、福岡県久留米市の「古賀河川図書館」館長として長年に渡り河川文化の普及にご尽力されてきた古賀邦雄さんが、2024 年 3 月 27 日に 80 歳でご逝去されました。JRRN 活動へも 10 年以上に渡り多大なるご支援を頂き大変お世話になりました。JRRN 会員有志メンバーより寄稿頂きました追悼文をご紹介しますとともに、古賀さんが収集された貴重な書籍がこれからも閲覧できる久留米大学御井図書館「古賀邦雄河川文庫」をご紹介します。ご紹介します。

## いつか来る日のために遺した河川図書館-古賀邦雄さんを偲んで-

坂本 貴啓 (金沢大学人間社会研究域 地域創造学系 講師)



古賀さんと筑後川で (2013 年 12 月)



白川研で古賀河川図書館・筑後川訪問 (2013 年 7 月)

### 1. 古賀さんとの出会い

「あのねー、この本の中にね、こう書いてあるんですよ」と電話越しにまたいつもの調子の声が今にも聞こえてきそうだ。もうあの川はあーだ、こーだと熱血議論ができないと思うと寂しい。

古賀邦雄さんとの出会いをさかばると、私が高校 3 年生の頃 (2006 年 2 月頃) が最初で、「私、川の本をたくさん集めているのと、皆さんにそれを知ってもらおう活動をしています」と名刺をいただいたことがきっかけだった。当時、世界子ども水フォーラムで翌月にメキシコ大会に派遣が決まっていたところで、日本の河川文化に関する何かを話のタネにもっていかうか悩んでいたところだった。古賀さんとお話するうちに河童を持っていてはどうかということで、翌週には筑後川水系の巨勢川 (田主丸) を歩いて、河童のルーツを探す旅をした。文献を見て、そのあと実際にその川を歩くことの楽しさを教えていただき、それから古賀さんは私の川巡りの師匠となった。2007 年 (大学 1 年生頃) に河川図書館ができてからは二日市 (最初の場所)、久留米 (引っ越し後) とともによく通った。いつもおいしいお菓子とコーヒーで語らいながら、話題が飛んではその川の本を広げ楽しく話した。指導教員の白川直樹先生と一緒に行った際は、図書館の本に囲まれて泊ったこともいい思い出だ。

学生時代、つくばに住んでいた私はとにかくよく古賀さんと電話していた。この前、あの川を歩いたの報告からはじまり、こ

の川にはこんな本がある、こんな人がいてなど、話始めると軽く 1 時間は超えている。当時、家にお電話をかけると、「あなたー、坂本さんから電話ですよー！」と奥さまの声が聞こえた。

### 2. 全国各地の川巡りへ

2013 年、私が博士課程に進学してからは日本各地の川巡りを古賀さんと一緒にいろんな機会にすることが多くなった。たぶん、私が古賀さんと各地の川は一番一緒に旅していると思う。私の河川市民団体の調査や、水の文化誌での日本の川の連載の取材などの際、古賀さんも「私も一緒に行きますよ」と一緒に来ていただいた。109 水系にすると何水系を古賀さんと歩いたか数えてみると、日本各地の 50 水系は歩いているのではないと思う。メインの行事の前日の日に余裕があると、私と古賀さんで前泊、後泊して、時間の限り川を巡った。私が運転、古賀さんが助手席で車の中で話すのは、もちろん川の話ばかりだ。

古賀さんとの川巡りで一番学んだのは、現地の碑文を読むことだ。古賀さんは川治いや神社で碑文を見つけるとすぐそのそばに行き、碑文を読み込む。碑文にはその川や地域が辿ってきた変遷が書いてあり、その川への理解が格段深くなった。また、各所の公共施設などに寄った際に、全国的には出回ら



古賀さんと東北の川 13 水系を踏査 (2013 年 8 月)

(JRRN Newsletter 2013 年 9 月号)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/files/2013/09/JRRNkawahito17.pdf>



古賀さんと重信川を踏査 (愛媛県松山市、2016 年 11 月)



古賀さんと佐波川を踏査 (山口県防府市、2021 年 7 月)

ない河川書などを見つけては購入したり、非売品には交渉して譲ってもらったりもしていた。河川書の現地調査はこうして行われ、あの充実の蔵書をつくりあげたのかと納得である。

### 3. 河川書の未来

川巡りで周った後、古賀さんは「いやー、やっぱり〇〇川は日本一の川じゃないかなあ」と毎回感想を述べ、「古賀さん、この前は△△川が日本一と言われていましたよ！」と突っ込むと、「いやあー、今、周った川がどうしても一番いい川に見えるね」とよく笑ったものだ。いつも面白おかしく笑っていることの多い旅路だったが、ある瞬間、しーんとなった時に古賀さんがぼそりと語り始めたことがあった。「私の図書館の本のことをそろそろ考えないといけないと思うんだよなあ。私も年だからさ。」とおっしゃられたことがあった。亡くなられる 10 年前のことだ。「古賀さん、なにをおっしゃるんですか。まだまだ先の話じゃないですか」と話を濁してみたものの、「あなたが大学の先生になったら私の後、全部託そうか？」と言われたこともあったが、とても古賀さんの 1

万 3 千冊を一人で、全部管理できるとはとても思えなかったし、自身がそれを生かし切れる自信もなく、首を振ったことを覚えている。その後、ちよくちよくと、いつか来る日のための準備をすることが多くなり、具体的にどこに図書館を置くかという話まで至るようになった。古賀さんは本を受け入れてくれるところがあれば、どこでもいいとも言われていたが、私は、古賀さんが図書館を開いた筑後川流域かつできるだけ、古賀さんが日常的に通える場所、本がバラバラにならず古賀さんの河川書の分類のまま、受け入れてくれるところがいいのではないかと意見を交わしたが、なかなか場所が見つからなかったことを覚えている。2018 年くらいのことである。その後、古賀さん宅 (河川図書館) からも近い、久留米大学の御井図書館に寄贈が決まり、「古賀邦雄河川文庫」が設置されることが決まった。古賀さんの独自の河川書の分類のまま受けいれてもらえることで、古賀さんの河川哲学の一端に触れることができる。2019 年冬に古賀さん宅に何うと、久留米大学に運ぶ本の荷詰めで大忙しであった。古賀さんの熱意と努力あって、2020 年 3 月、御井図書館内に古賀邦雄河川文庫が開設された。古賀さんはその後も、本を毎月 50 冊ほど図書館に新蔵書入手しては収蔵していた、図書館の充実に余念がなかった。

### 4. いつか来る日のために

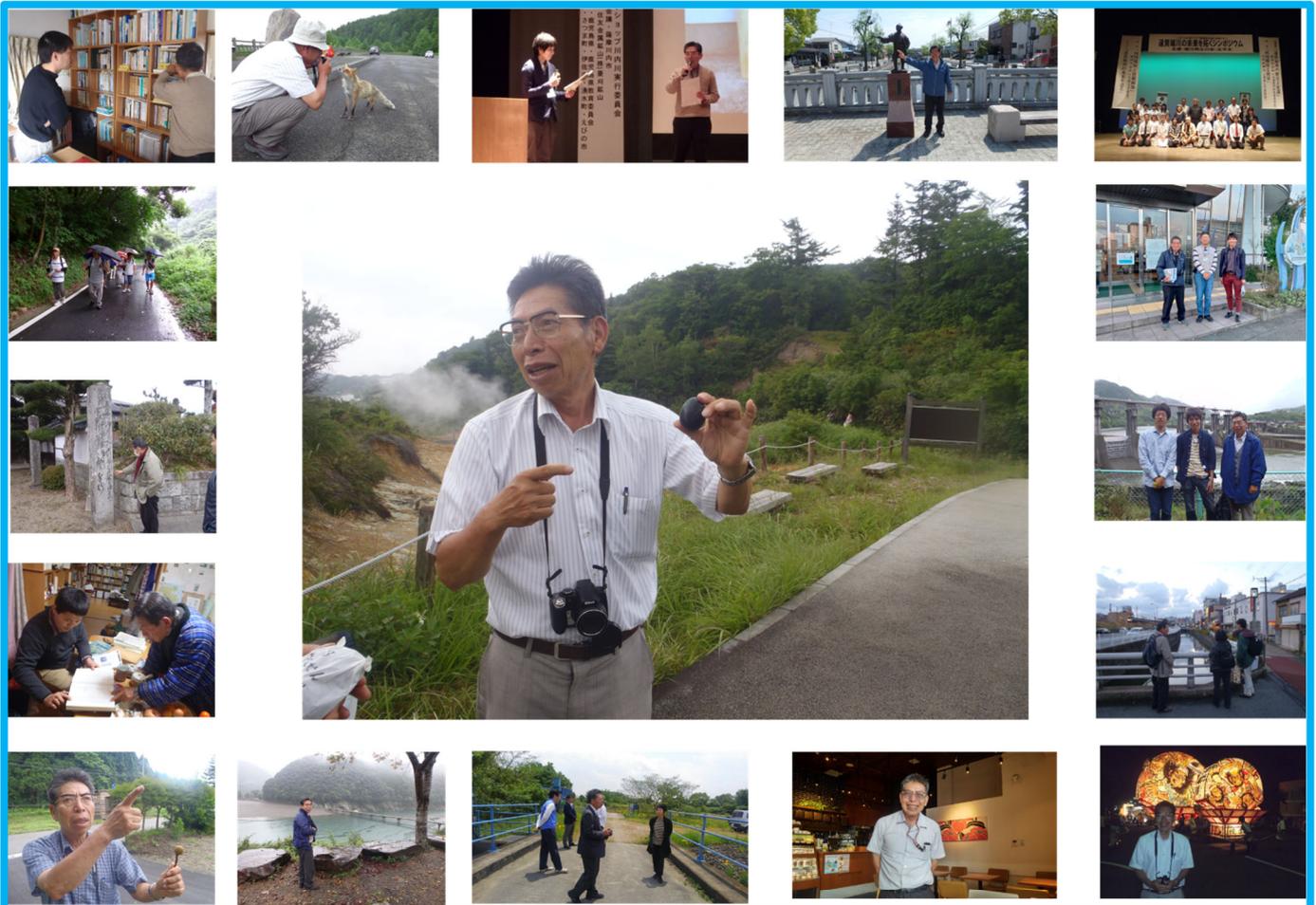
古賀さんが入院されているのを知ったのは、2024 年 2 月末に入ってからだった。ご逝去される 1 ヶ月前であった。1 月 9 日に倒れられてから、2 ヶ月間、そのことをほとんどの人は知らず、「最近古賀さんと話してないなあ」と思って過ごされていたと思う。3 月 16 日に古賀さんのお見舞いに川仲間と行った。ベットに寝てあまり動けない古賀さんに「今日、筑後川行ってからきましたよ!」、「この前、この川のこと書きましたよ」など、いろいろ話しかけた際、言葉にはできないものの、じーっと、目を見て、手をぎゅっと握り返してくれた。あの手の力強さは忘れられない。3 月 27 日 (木)、28 日 (金) の葬儀の際には、たくさんの方が来られていた。みんな悲しみの中にも、古賀さんとの思い出に花を咲かせていた。古賀さんはいつか来るこの日のために、河川図書館ごと寄贈したり、書籍として知見をまとめたりと、着々となさった。葬儀の日には悲しみを越えて、感謝が溢れかえってきた。尊敬とともに、心からの感謝を伝えたい。古賀さんが遺した河川書、そして河川哲学は我々に少しずつ引き継がれている。古賀さんに会いたくなったら、久留米大学の古賀邦雄河川文庫に行くことをおすすめしたい。「古賀さんが話していたこと、この本 (分類) のところに書かれているな」とか「古賀さん、この本どこから集めてきたのだろう」、色々感じるものがある。ぜひ、一冊一冊手に取って、古賀さんの河川哲学に触れてほしい。いつでもそこで古賀さんに会うことができる。ご冥福をお祈りするとともに、古賀邦雄文庫が後世に長く利用されていくことを願う。



古賀河川図書館の蔵書寄贈直前（2019年12月）



古賀さんが遺した1万3千冊の古賀邦雄河川文庫  
(2024年3月29日、葬儀の後に見学)



## 古賀河川図書館古賀さんとの思い出

梅崎健史（独）水資源機構筑後川局

古賀河川図書館の館長古賀邦雄氏と初めて出会ったのが、私が大学時代の17年前でした。当時、大学が地域との交流で、近くの川を歩き（写真1）や報告会のイベントに、古賀さんは必ず参加されており、毎回お会いしていました。それから会う度に、私は古賀さんから河川の向き合い方について、教えて頂くようになりました。



写真1 川歩き（樋井川）

私が学生を卒業するときには、私の論文を古賀河川図書館（筑紫野市）に置きたいとおっしゃってください、大変嬉しく思いました。（写真2）そして、私は学生間との交流で坂本貴啓氏と出会い、一緒に古賀さんと交流を深めていきました。



写真2 古賀河川図書館にて（筑紫野市）



写真3 川仲間（ふくおか水もり自慢!）



写真4 碑文を見る古賀さん（大山川）

毎年、子供から大人まで川仲間が集まるワークショップで、古賀さんと坂本氏と川の話をするのが楽しみでした。（写真3）古賀さんからは、碑文を知ることをお願い（写真4）、一緒に川歩きやダム巡りをする機会があり、坂本氏のGo! Go! 109水系を巡る企画で、私の職場（立野ダム工事現場）にも来ていただいたこともありました。（写真5）思ってもいなかったですが、古賀さんが勤めていた（独）水資源機構筑後川局に私が令和5年度から出向することになり、OBとしても指導して頂きました。

今まで教えて頂いたことを引き継いで、河川行政を今後も務めていきたいと思えます。

最後になりますが、ご冥福をお祈りします。これからも、私は空（古賀さん）に向かって河川、ダム状況を報告していきますが、いつまでも古賀河川図書館の書籍が後世に届いてほしいと願っております。なお、古賀河川図書館（久留米市）で、坂本氏と一緒に書籍の分類分けを手伝い、久留米大学へ移設の準備をしたことが思い出となっております。（写真6）

これまで、古賀さんとの交流できる機会をあたえてくださった方々に深く感謝申し上げます。



写真5 立野ダム工事現場



写真6 古賀河川図書館（久留米市）

## 古賀さんから学んだ人と川の営みを読む力をこれからも磨いていきます

和田 彰（公益財団法人リバーフロント研究所）

古賀さんと初めてお会いしたのはいつだったろうか？

気になりだしたらじっとしてられず、過去に交わした名刺や自分の日記、また川を巡った写真等を振り返りながら思い当たる時期前後の情報をかき集めて探してみた。

すると、今から11年半前の2012年10月18日に会議室内でお会いしたのが初めての古賀さんとの出会いであったことが判明した。そしてその会議室は、私が5年前に転職して現在勤務しているここリバーフロント研究所の会議室であったことも分かった。

当時の会議のテーマは、北九州を流れる遠賀川と洞海湾とを結ぶ全長12kmの遠賀堀川の再生に向けた企画会議。JRRNも協力して地元で何かイベントができないかということで、筑波大学・白川研究室チームとともに古賀さんがリバフロを訪れ、遠賀堀川の歴史をみんなで学びながら色々な作戦を立てた記憶が蘇ってきた。その日の自分の日記には『新たな川に関わる行事の企画会議で、色々難題はあるものの何とか素晴らしい行事となることに貢献できるよう汗をかいていきたいもの。』と書かれている。2013年2月には、真冬の雪が降る中、遠賀堀川を古賀さんや筑波大チームとともに上流から下流まで踏査し、遠賀堀川における人と川の営みを地元の方々や古賀さんの案内で学ばせて頂いたのは懐かしい思い出となっている。



2013年2月 遠賀堀川周辺の踏査

この遠賀堀川での古賀さんとの出会い以降、JRRNが毎週配信していたJRRNニューズメールの新刊書籍の情報提供を古賀さんにご協力頂くことになった。また、2018年5月から2019年9月までの約1年半、毎月発行していたJRRNニューズレターへ「河川書の探求」として古賀さんに連載頂いた。

■ JRRN ニューズレター連先「河川書の探求(1)～(17)

<http://jp.a-rr.net/jp/news/member/category/library>



2013年12月 東彼杵町の水辺調査

2013年12月に長崎県東彼杵町の川巡りに古賀さんと一緒にいた際、JRRNによる河川再生事例普及の取組みについて古賀さんよりアドバイスを頂いたことを鮮明に覚えている。当時、河川再生の事例を紹介する際には、再生前後の写真をBefore & Afterとして象徴的に並べて示す見せ方を多用していたが、古賀さん曰く「本来の川が有する時空間的な深みが伝わらないような気がして、この示し方はどうなのかなあ？」と。

日本全国の河川を隈無く歩かれてきた古賀さんだからこそ感じる「川の伝え方の違和感」であり、その助言以来、川が有する様々な時空間的な側面をできるだけ削ぎ落とさない伝え方を意識して川づくりの情報発信に取り組むよう努めている。



2018年2月 東京の母なる川・隅田川での古賀さん

約10年に渡る古賀さんとの川巡り、そしてお電話やメールでのやりとりを通じて、川に関わる本当はたくさんのことを学ばせて頂いた。古賀さんから学んだ人と川の営みを読み取る力をこれからも磨き続けながら、古賀さんの思いを引き継ぎ、日本が誇る豊かな河川文化を全国に届けていきたいと思う。心からお悔やみ申し上げます。

# 日本一の河川図書館をめざして

久留米大学御井図書館  
古賀邦雄河川文庫の紹介

2023年12月

## 古賀河川図書館の活動

(水・河川・湖沼に関する図書の間覧、貸出、ご相談)

**蔵書の検索**

検索を3つの検索方法で行えますが、こちらをインターネットで検索すると便利です。  
ホームページURL: <http://www.muroran.ac.jp/>

**検索履歴**

検索日時	検索キーワード	検索結果
2023/12/01 10:00	水害	10件
2023/12/01 10:05	治水	15件
2023/12/01 10:10	ダム	20件
2023/12/01 10:15	農業用水	12件
2023/12/01 10:20	河川	25件
2023/12/01 10:25	湖沼	18件
2023/12/01 10:30	水質	14件
2023/12/01 10:35	水資源	16件
2023/12/01 10:40	水環境	13件
2023/12/01 10:45	水文化	11件
2023/12/01 10:50	水産業	9件
2023/12/01 10:55	水工学	17件
2023/12/01 11:00	水資源管理	14件
2023/12/01 11:05	水資源政策	12件
2023/12/01 11:10	水資源開発	10件
2023/12/01 11:15	水資源利用	11件
2023/12/01 11:20	水資源確保	13件
2023/12/01 11:25	水資源保護	15件
2023/12/01 11:30	水資源再生	12件
2023/12/01 11:35	水資源循環	14件
2023/12/01 11:40	水資源持続	11件
2023/12/01 11:45	水資源活用	13件
2023/12/01 11:50	水資源開発	15件
2023/12/01 11:55	水資源利用	12件
2023/12/01 12:00	水資源確保	14件
2023/12/01 12:05	水資源保護	11件
2023/12/01 12:10	水資源再生	13件
2023/12/01 12:15	水資源循環	15件
2023/12/01 12:20	水資源持続	12件
2023/12/01 12:25	水資源活用	14件
2023/12/01 12:30	水資源開発	11件
2023/12/01 12:35	水資源利用	13件
2023/12/01 12:40	水資源確保	15件
2023/12/01 12:45	水資源保護	12件
2023/12/01 12:50	水資源再生	14件
2023/12/01 12:55	水資源循環	11件
2023/12/01 13:00	水資源持続	13件
2023/12/01 13:05	水資源活用	15件
2023/12/01 13:10	水資源開発	12件
2023/12/01 13:15	水資源利用	14件
2023/12/01 13:20	水資源確保	11件
2023/12/01 13:25	水資源保護	13件
2023/12/01 13:30	水資源再生	15件
2023/12/01 13:35	水資源循環	12件
2023/12/01 13:40	水資源持続	14件
2023/12/01 13:45	水資源活用	11件
2023/12/01 13:50	水資源開発	13件
2023/12/01 13:55	水資源利用	15件
2023/12/01 14:00	水資源確保	12件
2023/12/01 14:05	水資源保護	14件
2023/12/01 14:10	水資源再生	11件
2023/12/01 14:15	水資源循環	13件
2023/12/01 14:20	水資源持続	15件
2023/12/01 14:25	水資源活用	12件
2023/12/01 14:30	水資源開発	14件
2023/12/01 14:35	水資源利用	11件
2023/12/01 14:40	水資源確保	13件
2023/12/01 14:45	水資源保護	15件
2023/12/01 14:50	水資源再生	12件
2023/12/01 14:55	水資源循環	14件
2023/12/01 15:00	水資源持続	11件
2023/12/01 15:05	水資源活用	13件
2023/12/01 15:10	水資源開発	15件
2023/12/01 15:15	水資源利用	12件
2023/12/01 15:20	水資源確保	14件
2023/12/01 15:25	水資源保護	11件
2023/12/01 15:30	水資源再生	13件
2023/12/01 15:35	水資源循環	15件
2023/12/01 15:40	水資源持続	12件
2023/12/01 15:45	水資源活用	14件
2023/12/01 15:50	水資源開発	11件
2023/12/01 15:55	水資源利用	13件
2023/12/01 16:00	水資源確保	15件
2023/12/01 16:05	水資源保護	12件
2023/12/01 16:10	水資源再生	14件
2023/12/01 16:15	水資源循環	11件
2023/12/01 16:20	水資源持続	13件
2023/12/01 16:25	水資源活用	15件
2023/12/01 16:30	水資源開発	12件
2023/12/01 16:35	水資源利用	14件
2023/12/01 16:40	水資源確保	11件
2023/12/01 16:45	水資源保護	13件
2023/12/01 16:50	水資源再生	15件
2023/12/01 16:55	水資源循環	12件
2023/12/01 17:00	水資源持続	14件
2023/12/01 17:05	水資源活用	11件
2023/12/01 17:10	水資源開発	13件
2023/12/01 17:15	水資源利用	15件
2023/12/01 17:20	水資源確保	12件
2023/12/01 17:25	水資源保護	14件
2023/12/01 17:30	水資源再生	11件
2023/12/01 17:35	水資源循環	13件
2023/12/01 17:40	水資源持続	15件
2023/12/01 17:45	水資源活用	12件
2023/12/01 17:50	水資源開発	14件
2023/12/01 17:55	水資源利用	11件
2023/12/01 18:00	水資源確保	13件
2023/12/01 18:05	水資源保護	15件
2023/12/01 18:10	水資源再生	12件
2023/12/01 18:15	水資源循環	14件
2023/12/01 18:20	水資源持続	11件
2023/12/01 18:25	水資源活用	13件
2023/12/01 18:30	水資源開発	15件
2023/12/01 18:35	水資源利用	12件
2023/12/01 18:40	水資源確保	14件
2023/12/01 18:45	水資源保護	11件
2023/12/01 18:50	水資源再生	13件
2023/12/01 18:55	水資源循環	15件
2023/12/01 19:00	水資源持続	12件
2023/12/01 19:05	水資源活用	14件
2023/12/01 19:10	水資源開発	11件
2023/12/01 19:15	水資源利用	13件
2023/12/01 19:20	水資源確保	15件
2023/12/01 19:25	水資源保護	12件
2023/12/01 19:30	水資源再生	14件
2023/12/01 19:35	水資源循環	11件
2023/12/01 19:40	水資源持続	13件
2023/12/01 19:45	水資源活用	15件
2023/12/01 19:50	水資源開発	12件
2023/12/01 19:55	水資源利用	14件
2023/12/01 20:00	水資源確保	11件
2023/12/01 20:05	水資源保護	13件
2023/12/01 20:10	水資源再生	15件
2023/12/01 20:15	水資源循環	12件
2023/12/01 20:20	水資源持続	14件
2023/12/01 20:25	水資源活用	11件
2023/12/01 20:30	水資源開発	13件
2023/12/01 20:35	水資源利用	15件
2023/12/01 20:40	水資源確保	12件
2023/12/01 20:45	水資源保護	14件
2023/12/01 20:50	水資源再生	11件
2023/12/01 20:55	水資源循環	13件
2023/12/01 21:00	水資源持続	15件
2023/12/01 21:05	水資源活用	12件
2023/12/01 21:10	水資源開発	14件
2023/12/01 21:15	水資源利用	11件
2023/12/01 21:20	水資源確保	13件
2023/12/01 21:25	水資源保護	15件
2023/12/01 21:30	水資源再生	12件
2023/12/01 21:35	水資源循環	14件
2023/12/01 21:40	水資源持続	11件
2023/12/01 21:45	水資源活用	13件
2023/12/01 21:50	水資源開発	15件
2023/12/01 21:55	水資源利用	12件
2023/12/01 22:00	水資源確保	14件
2023/12/01 22:05	水資源保護	11件
2023/12/01 22:10	水資源再生	13件
2023/12/01 22:15	水資源循環	15件
2023/12/01 22:20	水資源持続	12件
2023/12/01 22:25	水資源活用	14件
2023/12/01 22:30	水資源開発	11件
2023/12/01 22:35	水資源利用	13件
2023/12/01 22:40	水資源確保	15件
2023/12/01 22:45	水資源保護	12件
2023/12/01 22:50	水資源再生	14件
2023/12/01 22:55	水資源循環	11件
2023/12/01 23:00	水資源持続	13件
2023/12/01 23:05	水資源活用	15件
2023/12/01 23:10	水資源開発	12件
2023/12/01 23:15	水資源利用	14件
2023/12/01 23:20	水資源確保	11件
2023/12/01 23:25	水資源保護	13件
2023/12/01 23:30	水資源再生	15件
2023/12/01 23:35	水資源循環	12件
2023/12/01 23:40	水資源持続	14件
2023/12/01 23:45	水資源活用	11件
2023/12/01 23:50	水資源開発	13件
2023/12/01 23:55	水資源利用	15件

**図書館の様子**



治水、水害、ダム工事誌など土木  
水道、農業用水分野などの専門書  
川が舞台の文学、児童書など  
**約12,000冊**

全国から毎年約100名  
来館者があった

## 久留米大学御井図書館へ寄贈 (2020年)

2020年1月より搬入順で作業開始し、  
整理済みの資料は随時、**古賀邦雄河川文庫**  
に排架し、  
約1万冊の閲覧・貸出ができるよう作業を行って  
います。



## 500号館地下1階集密書庫



日本一の河川図書館を目指します。

久留米大学御井図書館の

「古賀邦雄河川文庫」をぜひご利用ください

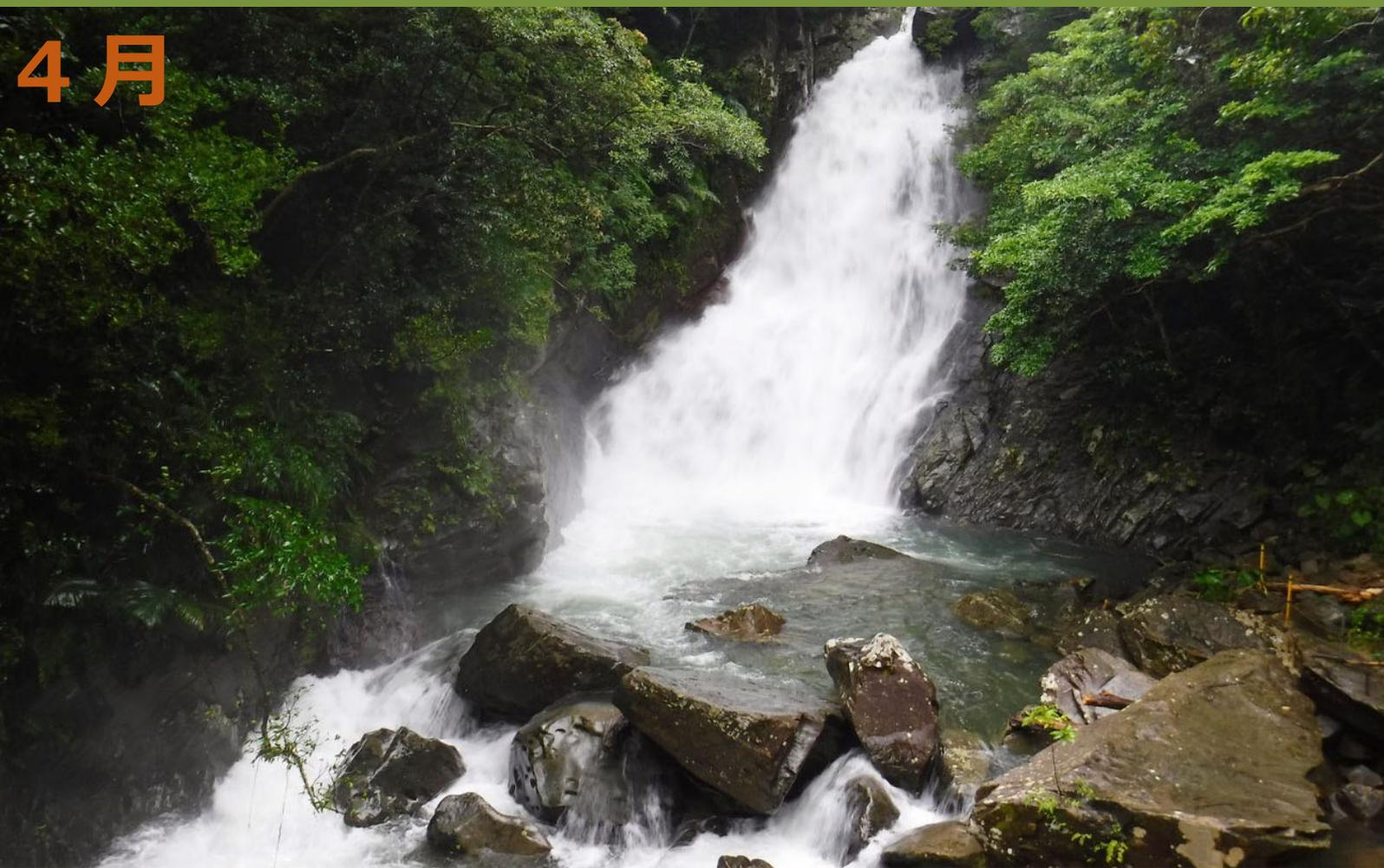
【問い合わせ先】

久留米大学御井図書館

TEL 0942-44-4015

HP <https://miilib.kurume-u.ac.jp/>

4月



## あの日のあの川 リレー日記 ～第73話～



あの日のあの川  
リレーDiary

みなさんはどこの川でどんなことをした記憶がありますか？ 幼少期や青春時代に体験した川での記憶を日記として掘り起こして語るコーナーです。リレー形式で毎回次の人にバトンをつなぎます。

### 第73話主人公 安仁屋稜

(筑波大学大学院 システム情報学研究科 構造エネルギー工学専攻 白川(直) 研究室『川と人』ゼミ)

(□川ガール・■川系男子)

(出身地を流れる川：沖縄県安謝川)

### 「清涼感あふれる比地大滝と比地川」

いつのこと？：小学生

どこの川？：比地川(沖縄)

岸本さんからバトンを受け取りました。白川研究室の安仁屋と申します。私の思い出の川は比地川です。この川には比地大滝という沖縄本島内では一番の高さ25.7mを誇り、水量の豊富な滝があります。

比地大滝に訪れたのは、家族との夏休みの旅行でした。滝の迫力に圧倒されながら、その美しさに魅了されました。水しぶきが身体を包み込む中、周囲の緑豊かな景色が私たちを魅了しました。

比地川では、滝つぼでの水泳や岩場でのピクニックを楽しみました。水は澄んでいて透明度が高く、底の魚が見えるほどでした。家族と一緒に過ごす楽しいひときは、私の心に深く刻まれました。特に夕暮れ時の川岸でのバーベキューは、笑いと楽しみ

があふれ、それぞれの思い出となりました。

比地大滝キャンプ場では、星空の下でのキャンプファイヤーが特に印象的でした。夜空に広がる星々の美しさに見とれながら、友人たちと語り合うひときは、静寂と温かさに包まれました。大自然の中で過ごす夜は、普段の喧騒から離れて心を落ち着かせる貴重な時間でした。

帰りの道中、比地大滝と比地川での思い出が頭をよぎりました。自然の恵みに感謝しながら、その美しい景色と楽しい時間をいつまでも心に留めておきたいと思いました。

比地大滝と比地川での素晴らしい思い出は私の心に残り続け、今でも思い出ただけである頃感じた涼しさと安心を感じることができます。自然の恵みに感謝しながら、その美しい景色と楽しい時間をいつまでも忘れることはありません。

(次は曽根さんにバトンを託します)

「リバプロサポートセンター」からのお知らせ RiverFront Support Center

※「リバプロサポートセンター」は、公益財団法人リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。JRRN はリバプロサポートセンターと二人三脚で川づくり・まちづくり・流域づくりの推進に取り組んでおります。

**「河川汽水域における多自然川づくりの技術資料（試案）」及び「多自然川づくりの高度化に向けた河道の3次元設計導入の手引き（案）」を公開しました**

「多自然川づくりサポート」事務局（担当：渡邊祐介）

■ 河川汽水域における多自然川づくりの技術資料（試案）

本技術資料（試案）は、平成 29 年に取りまとめられた提言「持続性ある実践的多自然川づくりに向けて」で提示された、多自然川づくりの技術的手法が取りまとめられていない分野である汽水域について、「河川汽水域」における多自然川づくりの基本的な考え方や具体的な事例を取りまとめたものです。

第 1 章では河川汽水域の特徴や類型化等、第 2 章では河川汽水域における河川事業の傾向と課題、第 3 章では河川汽水域における技術的な留意点について事例を交えて解説しています。第 4 章では事業における課題解決の取組について好事例を参考にまとめています。

※本技術資料のダウンロードはこちらから：  
<https://www.rfc.or.jp/theme04-2.html>

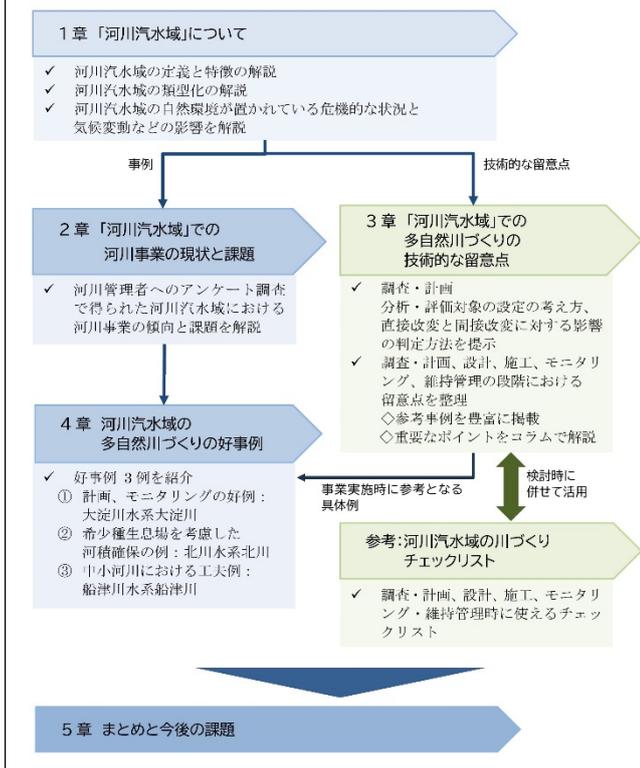
■ 多自然川づくりの高度化に向けた河道の3次元設計導入の手引き（案）

本手引き案は、河道掘削等のための河道設計を行う際に活用されることを想定し、3次元データを活用した河道の3次元設計の検討プロセス及びポイントについて、多自然川づくりに直結する環境面の評価・活用方法を主な対象として、試行河川の事例を踏まえ取りまとめたものです。

第 1 章では河道の3次元設計を推進する意義、第 2 章では河道の3次元設計に用いる解析・評価手法、第 3 章は河道の3次元設計における検討プロセスについて解説しています。

※本手引きのダウンロードはこちらから：  
<https://www.rfc.or.jp/theme04-3.html>

◇本書の構成



<目次>

- はじめに
  - 1.1 本手引きの目的
  - 1.2 3次元データを活用した河道の3次元設計を推進する意義
  - 1.3 本手引きの位置づけ
- 河道の3次元設計に用いる解析・評価手法
  - 2.1 解析手法の選定
  - 2.2 評価項目の整理
- 河道の3次元設計における検討プロセス
  - 3.1 ①3次元データを活用した河道の3次元設計に必要なデータの入手
  - 3.2 ② 河川整備の目標及び課題整理
  - 3.3 ③モデル化対象範囲及び計算条件の設定
  - 3.4 ④解析モデルの再現性の確認
  - 3.5 ⑤河川整備計画又は暫定整備の河道の作成、代替案の河道の作成
  - 3.6 ⑥将来の河道の予測
  - 3.7 ⑦作成した河道（将来を含む）の治水、物理・生物環境、景観の評価
  - 3.8 ⑧必要に応じて有識者の意見聴取
  - 3.9 ⑨河道の決定
  - 3.10 ⑩ICT 施工に向けての図面の微修正
  - 3.11 ⑪設計時に期待していた効果が発現しているかモニタリング・評価
- 今後に向けて

## 安全で豊かな河川と水辺、にぎわいのある地域づくりの実践をサポート

リバフロサポートセンターは、リバーフロント研究所が強みとするテーマの情報、技術、研究成果、また川づくりの楽しさややりがい等を社会に発信し、水辺とまちのパートナーとして各地域の担い手を支援します。

### □ 設立の背景と目的：

公益財団法人リバーフロント研究所は、河川・流域の治水・自然環境・生態系、水辺のにぎわい、さらには健全な水循環系の視点から、これからの社会のあり方や価値観を提案し、その実現に向けた課題を見出し、施策提言・研究・技術開発・普及啓発などの活動を通じてその解決を図るとともに、現場実践、多様な主体との連携・協働を通じてスタンダードをつくり社会実装させることに日々挑戦しています。

当研究所が強みとするテーマに関連する情報、研究成果、技術等を社会に還元するとともに、行政職員・市民団体・技術者・研究者など全国の川づくり・地域づくり・流域づくりの担い手を支援する窓口として、新たに「リバフロサポートセンター」を2022年7月22日（金）に設立しました。

同サポートセンターは、これまで当研究所が事務局を務めてきた「多自然川づくりサポートセンター」や「日本河川・流域再生ネットワーク」の機能を引き継ぐとともに、「かわまちづくり」や「河川環境管理シート」などの支援体制を強化することから着手し、治水と環境とにぎわいが共存する川づくり・まちづくり・流域づくりの更なる推進に貢献することを目的とします。

### □ サポートセンターの概要：

- ・所在地：東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF茅場町ビル7階（公益財団法人リバーフロント研究所内）
- ・センター長： 崎谷和貴 （副センター長：都築隆禎）
- ・4つの機能： 川づくり・まちづくり・流域づくりに関わる次の機能を担います。

- ①技術開発・普及……………新技術の開発及びそれらの普及啓発
- ②情報提供……………ナレッジ集約及び情報発信
- ③技術指導・地域連携……………研修会開催、講師派遣を通じた実務者等の人材育成
- ④国際協力……………日本の経験の海外普及及び海外知見の日本への還元

### □ サポートセンターの体制：

リバフロサポートセンターは、テーマ別に4つのサポート窓口で構成され、今後新たなテーマの窓口創設も目指してまいります。また、どの窓口にご相談すべきかわからないテーマについてもお気軽にお問い合わせください。



### □ リバフロサポートセンターへのお問合せ：

サポートに関わるお問合せは、お気軽にメールにてご連絡をお願いします。email: [supportcenter@rfc.or.jp](mailto:supportcenter@rfc.or.jp)  
また、サポートセンター及び各サポート窓口の概要は以下のウェブサイトをご覧ください。

※リバフロサポートセンター： <https://www.rfc.or.jp/supportcenter.html>

会議・イベント案内 (2024年4月以降) *Event Information*

## (国内の河川・流域再生に関する主なイベント)

## ■ 100年後の安心のための TOKYO 強靱化世界会議

- 日時：2024年5月8日(水) 9:30-17:45
- 主催：100年後の安心のための TOKYO 強靱化世界会議実行委員会
- 場所：イタリア文化会館(東京都千代田区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3539.html>

## ■ 第二十三回「琵琶湖外来魚駆除の日」

- 日時：2024年5月26日(日) 10:00-15:30
- 主催：琵琶湖を戻す会
- 場所：草津市烏丸半島多目的広場(滋賀県草津市)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3537.html>

## ■ 2024年度河川技術に関するシンポジウム

- 日時：2024年6月20日(木)~21日(金)
- 主催：土木学会 水工学委員会
- 場所：土木学会(東京都新宿区)
- <http://jp.a-rr.net/jp/news/event/3543.html>

## ■ 第32回「リバーフロント研究所 研究発表会」

- 日時：2024年9月13日(金)
- 主催：公益財団法人リバーフロント研究所
- 場所：日本橋社会教育会館(東京都中央区)
- <https://www.rfc.or.jp/>

冊子等の紹介 *Publications*

## ■ 水辺の小さな自然再生 人と自然の環を取り戻す



地域住民が発案・協働し、手づくりの技で、身近な生物の生きる環境を回復する「小さな自然再生」が全国で進んでいる。北海道で地域住民の発意により行なわれている小さな自然再生、とくに「手づくり魚道」の取り組みを紹介しながら、地域の人々にとって身近な自然やそれと結びついた風景はどんな存在なのか、地域の力でそれを取り戻すことの意味は何かを問う。

<目次>

- 序章 変貌した故郷の風景——失われた空間の履歴
- 第1章 小さな自然再生との出会い——三郎川手づくり魚道ものがたり
- 第2章 広がる小さな自然再生
- 第3章 なぜいま小さな自然再生なのか
- 終章 小さな自然再生がひらく未来
- 終わりにかけて——海に生きる人に、風を

- 著者 中川大介 著
- 定価 2,200円 (税込)
- ISBNコード 9784540222023
- 発行日 2023年12月
- 出版 農山漁村文化協会(農文協)
- 判型/頁数 四六 280ページ
- 詳細はこちらから：

<https://toretate.nbkbooks.com/9784540222023/>

【お気軽にお問い合わせください】

## 日本河川・流域再生ネットワーク(JRRN) 事務局



〒104-0033 東京都中央区新川1丁目17番24号 NMF 茅場町ビル7階 (公財) リバーフロント研究所 内  
 Tel:03-6228-3861 Fax:03-3523-0640 E-mail: [info@a-rr.net](mailto:info@a-rr.net)  
 URL: <http://www.a-rr.net/jp/> Facebook: <https://www.facebook.com/JapanRRN>